

いちき串木野市地域学校協働活動

学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 4-9(205)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和4年11月7日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

10月10日はまぐろの日です。まぐろ漁業は、いちき串木野市の重要な産業です。子どもたちにマグロ漁業全般について知ってもらうため、鹿児島まぐろ船主協会、鹿児島まぐろ同友会、市水産商工課の方たちの支援を頂き、照島小と川上小で「まぐろの出前授業」が開催されました。

子どもたちの熱が入った TUNA 引き（以下、まぐろ釣り）や提供して頂いたまぐろの試食会等の様子をお届けします。

まぐろの出前授業：照島小、川上小

照島小では5年生31人を対象に10月7日（金）に、川上小では10月14日（金）に全学年が参加して、まぐろ出前授業が開催されました。

鹿児島まぐろ船主協会羽根田会長から、いちき串木野市は「まぐろの町」であり、まぐろ漁船数や水揚げは日本有数であり、まぐろ漁業について理解を深めて欲しいとの挨拶がありました。

その後、まぐろ漁業全般についてDVDを見ました。

まぐろの漁獲方法には、はえ縄漁業があり、針が1200本ぐらいついた縄を150kmぐらい海に入れ、まぐろを漁獲する方法とのことです。この距離は串木野市から熊本県の八代までの距離に相当するそうです

船では大変な作業があり、睡眠時間が5時間程度の場合もあると



羽根田会長からまぐろの説明（照小）



まぐろ、獲ったぞ！（川上小）



見事、景品ゲット！（川上小）



さあ、おいしい刺身どうぞ！（照小）

のことでした。さらに、冷凍技術が進み、1年以上漁業を続け、家に帰ることができない場合もあるとのこと。また、まぐろ漁業は荒天時に作業をする場合もあり、大変危ない、過酷な労働とのことでした。このような労働環境もあり、現在、乗組員の6割程が外国の船員で、日本人は少ないとのことでした。

子どもたちは、まぐろ漁業の過酷な場面の映像に食い入るように見入っていました。

視聴後、子どもたちはまぐろ釣りを楽しみました。

約20mの綱先に付いたまぐろ（3kg）を壇上に釣り上げるものです。3人1組で競技し、まぐろを早く釣り上げた人が勝ちで、勝った人は景品「まぐろの煮つけ」をもらい、大変喜んでいました。この時、体育館は割れんばかりの応援と歓声が響いていま

した。

競技のあとは、キハダマグロの試食です。

「まぐろを食べたのは久しぶり」とか「今日、お母さんにまぐろを食べたいと言ってみよう」とか楽しく会話しながら、美味しくいただけていました。「もう一回、この授業を受けたい」と言う子どももあり、本当に楽しい授業でした。また、まぐろ漁業に興味を持ち、「まぐろ漁船に乗ってみたい」という感想を持つ子どももいました。

照島小では、羽根田会長さんから質問があり、「家族の中でまぐろに関わる仕事をされている人はいますか」との質問があり、2人から手があがりました。まぐろが基幹産業である当市ですが、まぐろ産業に携わる人が意外と少ないことが分かりました。

連絡先＝市来庁舎3階 市教育委員会社会教育課

（Tel 21-5128）（FAX 36-5044）／ご意見・質問・相談もどうぞ

統括コーディネーター（串木野地域 濱田俊浩）（市来・生福地域 有元 操）

